

【遺跡紹介】長崎半島の石鍋製作所跡

東 貴 之

石鍋製作所跡（以下、製作所跡とします）といえば西彼杵半島を想像する方が多いかと思ひます。確かに数多くの製作所跡が存在します。現在のところ長崎県西彼杵半島が一番多く残っており、全国で出土する滑石製石鍋の最大の産地として認識されています。西彼杵半島以外にも産地は存在し、県内では長崎半島、県外では福岡県・山口県などが知られていますが、今回は長崎半島の石鍋製作所跡について簡単ではありますが紹介します。

(1) 鍋穴石鍋製作所跡（長崎市大崎町内）

長崎半島の中間、東海岸寄りに位置します。大崎林道から急斜面を下って製作所跡に行きます。製作所跡は谷の付け根に存在し、石鍋未成品（以下、未成品とします）は里（地名）の集落に運んだと考えられます。未成品の一部は地元の学校に展示しています。

(2) 鍋岩石鍋製作所跡（長崎市三和町内）

長崎半島のほぼ中央部、寺岳の南西の裾野に位置します。中学校の背後の墓地を通り、神社の先に製作所跡はあります。一部、倒木によって崩壊している箇所もありますが、ほとんど良好な状態で残っています。搬出はその地形から、おそらく、為石の港であったと考えられます。未成品の一部は地元の公民館に展示しています。

(3) 鍋岩石鍋製作所跡（長崎市野母崎町内）

長崎半島の南部、焼山の麓に位置します。レジャー施設の建設のために一部が破壊されてしまいました。現在は施設の道路沿いに製作所跡の状況が観察できるようにしています。ここからの眺めは絶景で、島原半島が良く見えます。島原半島からも石鍋が出土していますが、“その一部はここから運ばれたものでは”とついつい考えてしまいます。

(4) その他の石鍋製作所跡（長崎市内）

このほか、2箇所の製作所跡が周知されていますが、まだ私は見学していません。今後見学に行つて、状況の把握に努めたいと考えます。

① スピ石石鍋製作所跡（長崎市三和町内）

川原地区の山中に存在します。『三和町郷土誌』に写真が掲載されていますが、その詳細（規模やノミ痕の状況など）は不明です。写真で見ると立派な製作所跡にみえます。

② 松崎石鍋製作所跡（長崎市内）

長崎市の北部、滑石（なめし）地区の山中にあるそうです。この製作所跡は存在の話をお聞いただけで、詳細はまったくわかりません。1つだけいえるとしたら、地質的にこの製作所跡は長崎半島のものではなく、西彼杵半島に属する可能性が高いのではないかと思ひます。位置的には保事ノ尾などの製作所跡群よりも鷹ノ巣岩などの西彼杵半島の製作所跡群が近いと考えるからです。なるべく早く見学を実施したいです。

以上が長崎半島の製作所跡群です。長崎半島の製作所跡は西彼杵半島のものとは異なる点が2つあります。1つは製作所の規模が小さいことです。このことは滑石（蛇紋岩）ができる際に何かあったと思われませんが、断定はできません。もう1つは製作所跡の絶対数が少ないことです。蛇紋岩の分布が明らかに西彼杵半島より少ないことがわかります。

今後は長崎半島における製作所跡の状況把握に努めていく所存です。



第1図 石鍋製作所跡配置図